



原油市場からみた景気 中国需要、 想定ほど伸びず

米国や中国経済の先行きが見通せない。中東では地政学リスクに対する懸念が広がる。

石油市場からみた景気の展望を出光興産の木藤俊一社長に聞いた。

2024 年の原油需要をどう見えていますか。

「23 年の世界需要は新型コロナウイルス禍からの回復により、前年比で日量 225 万バレル以上増えた。国際エネルギー機関（IEA）によれば、今年はこれと比べると 100 万バレルほど少ない。それでもインドなどグローバルサウスの需要は拡大し、前年比 100 万バレル以上増える」

米エネ政策注視

中国はどうですか。

「中国もコロナからの回復により、需要にプラスのインパクトがあると見ていたが、中国経済は全般的におもわしくない。見込んでいた伸びはないが、大きく需要が減るわけでもない。IEA は 24 年は世界の供給がタイトになり、需要を下回るとの見通しを少し前に示していたが、その絵図は変わってきている」

米国景気の動向は。

「米当局が金融引き締めを転換し、行き過ぎた円安が是正に向かうとの見方があったが、足元はそうなっていない。経済指標を見る限り米国経済は思いのほか強い。ただし、11月の大統領選に向けてエネルギー・気候変動政策の展開は注視する必要がある」

中東の混乱が続いています。

「紅海でのイエメンの親イラン武装組織フーシによる船舶攻撃に米英が報復する応酬が続いている。日本のタンカーが紅海に行くケースは少ない。しかし、欧米向け原油が紅海を通れず喜望峰回りとなっていることで、タンカーの基準運賃がアジア向けを含めて急速に上昇している」

1 バレル 70～90 ドルか

石油輸出国機構（OPEC）の減産路線は続きますか。

「サウジアラビアの生産量は自主減産分を含め日量 900 万バレル程度だ。これ以上減らすと、あわせて出る天然ガスの生産などにも影響する。産油国、特にサウジは国家予算や構造改革に取り組むためにも 1 バレル 80 ドルはほしいのでは。24 年の原油価格は 80 ドルをはさんで 70～90 ドルの範囲ではないか」

中長期の原油需給はどうなりますか。

「国内の石油製品需要は 1999 年をピークに年率 2%程度で減る流れは変わらない。世界はアジアを中心にまだ伸びる。減少に転じる時期は少し前倒しになるという気がしている。一つの節目は 2030 年ではないか」

「今はまだエネルギーを化石燃料で賄う現実がある。移行期の安定供給を確保しつつ、将来エネルギーにどう移行していくのかが問われている。止めざるを得ない製油所と、高度化し製品供給の拠点として残すところを見極める」

脱炭素時代の燃料は何が有力ですか。

「出光は社内で 16 プロジェクトを走らせている。気候変動に対応し、量産やコスト低減が可能なエネルギーは何かを探っている。例えば非化石原料でつくる再生航空燃料（SAF）の製造設備を千葉事業所（千葉県市原市）に設ける。国際的な規制が課せられる航空業界にとって SAF は導入が待ったなしだ」



2024年 02月 26日 担当 アノジ

CO₂液化し大量輸送 CCS実用化へ 10月から実証 エネ庁実験船公開

製油所や火力発電所、工場から排出されるCO₂（二酸化炭素）を分離・回収し地下に貯留するCCSの実用化に向け、CO₂を大量に効率よく輸送する技術の実証事業が進められている。

資源エネルギー庁は今年10月から世界で初めて液化CO₂を低温・低圧の状態で運ぶ実験船「えくすくうる」による輸送実証事業を開始。京都府舞鶴市の関西電力火力発電所で回収したCO₂を、北海道苫小牧市の北海道電力苫小牧発電所敷地内の貯蔵タンクまで運ぶ計画だ。

16日に横浜市内で「えくすくうる」を報道陣に公開した。昨年11月に完成し、全長72メートルで重量は1290トン、2基のタンクで中温・中圧（マイナス20度、2メガパスカル）から低温・低圧（マイナス50度、0.6メガパスカル）までの液化CO₂を850トン積載できる。

液化CO₂は温度を下げつつ圧力をかけた状態で運ばなければ固体（ドライアイス）化や気化する。そのような状態での荷卸しはポンプなど設備破損につながる。



シンガポール、「SAF 税」で航空の脱炭素促進 26年導入

【シンガポール=谷籾子】シンガポール政府は19日、再生航空燃料（SAF）の普及に向けて「SAF 税」を2026年に導入すると発表した。同国出発便の航空運賃に上乗せし、SAFの購入に充てる。チャンギ空港などで供給する航空燃料へのSAFの混合比率を段階的に引き上げ、航空業界の温暖化ガス排出削減を後押しする。

欧州などで航空券に「環境税」をかける例はあるが、民間航空局によるとSAF購入費向けに特化した税は世界初という。

SAF 税は飛行距離や座席クラスに連動させる仕組みを想定している。同局の試算では、当初は東京行きのエコノミークラスが6シンガポールドル（約670円）前後、ロンドン行きで16シンガポールドル前後を見込む。

同局はこの税収を元手にSAFを購入し、従来の燃料と混合してシンガポールを出発する航空会社に供給する。市場価格で可能な限り購入する方針だ。シンガポールの空港で供給する航空燃料のうちSAFの混合比率を26年に1%、30年に3~5%に引き上げる目標だ。

SAF は航空業界の脱炭素の切り札とみられている。ただ供給量が限られており、価格も従来の燃料の 3～5 倍と高止まりしている。政府は一定の SAF 需要を促すことで、SAF メーカーが新規の増産投資をしやすくなり、供給拡大につながると期待している。

国際航空運送協会（IATA）は 50 年に温暖化ガスの排出量を実質ゼロにする目標を掲げており、SAF が排出量削減の 65%を担うとしている。アジア地域は SAF への移行が欧米などと比べて遅れ気味だったが、シンガポール航空が 23 年の実証実験を経て、30 年までに混合比率を 5%とする目標を打ち出すなどの動きが出てきた。

シンガポール運輸省は同日、空港の再生エネルギー利用拡大など「持続可能な航空ハブ」を目指す行動計画を発表した。チー・ホンタット運輸相は「航空業界が成長と環境の持続可能性の両方を達成できるようバランスを取る」と述べた。

日経新聞



レンゴーが3%高 「建築廃材から航空燃料の原料」、収益多角化に期待

レンゴーが続伸している。前日比 33 円 50 銭 (3.29%) 高の 1049 円まで上昇する場面があった。20 日付の日本経済新聞朝刊が「建築の木質廃材を使い、再生航空燃料 (SAF) の原料となるエタノールを生産する」と報じた。国土交通省は 2030 年までに国内の航空会社が使う航空燃料のうち、SAF を 1 割混ぜて使う計画といい、将来的な収益拡大や脱炭素に向けた取り組み強化につながるとの見方から買いが集まった。

レンゴーは約 200 億円を投じて設備を導入し、27 年に生産を始めるという。

SAF は航空機の二酸化炭素 (CO₂) 排出量を石油由来のジェット燃料より 7 ~9 割抑えるともいわれる。ただ、米欧に比べて SAF の供給網の整備で遅れており、レンゴーが廃材の回収ノウハウを活用し国内の供給体制を整える。市場では「将来的な収益寄与の規模は現時点では見通しにくい」が、主力の段ボール事業は海外勢などとの価格競争で収益環境が厳しいため、収益の多角化につながる

る点で好感できる」(アイザワ証券の三井郁男ファンドマネージャー)との声が聞かれた。

日経新聞



2024年 02月 26日 担当 アノジ

1月印刷・情報用紙国内出荷、17.5%減で17ヵ月連続のマイナス

日本製紙連合会が発表した2024年1月の紙・板紙需給速報によると、紙・板紙の国内出荷は前年同月比8.5%減で17ヵ月連続のマイナスとなった。用途別では、グラフィック用紙が15.7%減で24ヵ月連続のマイナス、パッケージング用紙が4.4%減で16ヵ月連続のマイナスとなっている。

印刷・情報用紙の国内出荷は前年同月比17.5%減で17ヵ月連続のマイナス。その他の品種でも、新聞用紙が10.2%減で32ヵ月連続のマイナス、包装用紙が3.6%減で14ヵ月連続のマイナス、段ボール原紙が3.9%減で8ヵ月連続のマイナス、白板紙が5.3%減で8ヵ月連続のマイナス、衛生用紙が4.3%減で6ヵ月連続のマイナスとなり、前月に続いてすべての品種で減少となっている。

<単月>

(単位:千トン、%)

		生産		出荷計				在庫		(参考)輸入*			
		前年比	前年比	国内出荷		輸出		前月比 増減	前年比	前年比			
				前年比	前年比	前年比	前年比						
1月	紙・板紙計	1,674	▲8.5	1,639	▲7.0	1,515	▲8.5	124	+16.4	1,897	+35	58	▲12.3
	紙計	801	▲10.8	800	▲10.8	738	▲12.4	62	+13.5	1,042	+1	41	▲8.5
	新聞用紙	136	▲10.1	130	▲10.2	130	▲10.2			143	+6	0	
	印刷・情報用紙	408	▲14.7	424	▲14.3	380	▲17.5	44	+27.4	612	▲17	37	▲7.7
	非塗工紙	107	▲18.2	109	▲16.8	101	▲18.2	7	+9.7	200	▲1	1	▲3.6
	塗工紙	212	▲17.1	234	▲15.2	199	▲20.3	35	+32.3	281	▲23	9	+19.2
	情報用紙	89	▲2.8	82	▲7.9	80	▲8.4	2	+19.5	131	+7	28	▲13.6
	包装用紙	59	▲15.9	60	▲5.0	49	▲3.6	11	▲10.7	101	▲1	1	▲19.6
	衛生用紙	146	+0.8	135	▲4.3	135	▲4.3	0	0.0	89	+10	1	▲5.9
	板紙計	873	▲6.4	839	▲3.1	777	▲4.6	62	+19.3	855	+33	17	▲20.6
	段ボール原紙	722	▲5.5	686	▲2.3	626	▲3.9	60	+19.1	623	+36	2	+71.5
	白板紙	97	▲11.2	102	▲4.8	100	▲5.3	2	+23.0	146	▲5	14	▲24.2
	グラフィック用紙	544	▲13.6	554	▲13.4	510	▲15.7	44	+27.4	755	▲11	38	▲7.4
	パッケージング用紙	985	▲6.8	950	▲3.3	870	▲4.4	80	+11.0	1,053	+35	19	▲21.1

Pj web news